

# 「主な活動（概要）」（高等学校）

|                    |
|--------------------|
| 【学校名】北海道登別青嶺高等学校   |
| 【活動の名称】<br>教育相談    |
| 【活用した資源】メンター制度     |
| 【対象学年と活動の時期】全学年 通年 |

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

（項目イー観点③環境づくり）

## 【活動の概要】

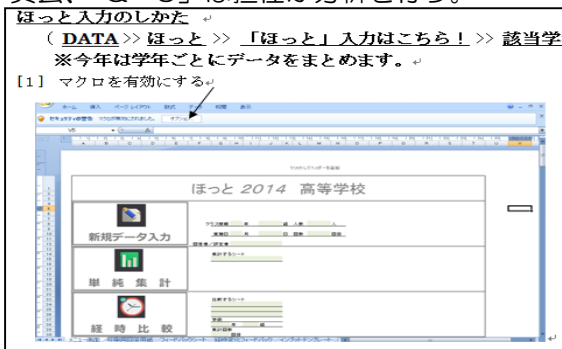
- ・教育相談委員会が中心となって、「ほっと」「Q-U」を実施し、結果を分析する。

## 【ねらい】

- ・個人や学級のコミュニケーションスキルの強みと弱みについて理解する。
- ・演習を通して規範意識を身に付けるとともに拒否や相談、援助要請などの意思決定と行動選択ができる。

## 【活動の流れ】〈教師の配慮事項〉

- ①校内教育相談委員会を中心に、実施要領を作成する。
- ②関係機関と連絡調整する。
- ③データの分析について、「ほっと」は教育相談委員会、「Q-U」は担当が分析を行う。



|   |                     |
|---|---------------------|
| Q-U 分析シート（H27. 11月実施） 締め切り 12月3日（水） ○○机上の封筒まで |                     |
| ※イントラ Q-U→H27→27.11Q-U分析シート。プリント外または手書きで提出。   |                     |
| 学級集団の背景                                       | 年 組 人数 名（男子 名 女子 名） |
| 問題と感じていること。                                   |                     |
| 学級の公的なリーダー（番号と簡単な説明）                          |                     |
| 学級で影響力の大きい・除で仕切るような生徒（番号と簡単な説明）               |                     |
| 態度や行動が気になる生徒                                  |                     |
| フロットの位置が意外に感じる生徒                              |                     |
| 学級内の小グループを形成する生徒                              |                     |
| 面談を行ったほうが良いと考えられる生徒                           |                     |



〈担任による教育相談〉



〈メンターとの面談〉

- ④教育相談委員会より全教職員に情報提供を行い、生徒理解を深める。
  - ⑤個別面談を行い、生徒理解を深める。
  - ⑥年度末に反省を行い、実施方法・分析方法等について改善を行う。発達段階に応じた生徒のコミュニケーションの実態や学級全体の雰囲気、個人の特性を把握し、教育相談と結び付け、全生徒が落ち着いた学校生活を送ることができるようになる。
- ※指導の具本
- ・授業中の机間指導により、生徒のつまずきに対応する。
  - ・清掃を生徒と一緒にやる。
  - ・補習を行う。



〈授業中の机間指導〉

## 【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・生徒の笑顔がこれまで以上に見られるようになった。
- ・学校での出来事を家庭で話す生徒が多くなった。

- 「ほっと」や「Q-U」の活用により、生徒一人一人や集団としての特性・傾向を把握し、生徒が安心して学べる環境づくりができています
- 生徒同士や、生徒と教師間の信頼関係を深めることで、居場所づくりや絆づくりを充実することにつながっています。



# 「主な活動（概要）」（高等学校）

|  |
|--|
| <b>【学校名】</b> 北海道富川高等学校                 |
| <b>【活動の名称】</b><br>コミュニケーションスキルの向上      |
| <b>【活用した資源】</b> カウンセラークラブ、国立ひだか青少年自然の家 |
| <b>【対象学年と活動の時期】</b> 1年生 通年             |

|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

(項目ウ—観点①居場所づくり)

**【活動の概要】**  
・地域の方に協力をいただき、定期的コミュニケーションスキルのトレーニングを行う。

**【ねらい】**  
・落ち着いたクラスの雰囲気を作成し、よりよい人間関係を築き、全ての生徒が安心して学校生活を送ることができるようにする。  
・外部講師の活用により、専門的な観点でトレーニングを行うことを通じて、社会性なども含め、幅広く様々なスキルを身に付けさせる。

**【活動の流れ】**  
①教員主体で年間の計画を作成し、実施プログラムを作成する。  
(平成27年度実施計画)

|       |                                |                 |  |
|-------|--------------------------------|-----------------|--|
| 4月15日 | 非言語のコミュニケーションを通して、相手の気持ちを理解する。 | 10月28日          | 挨拶や話を聞くロールプレイを通し、社会性を身に付ける。                        |
| 5月18日 | トラストワークを体験し、互いでサポートする大切さを学ぶ。   | 1月21日<br>(自然の家) | 人間関係づくりのワークショップを通して協調性や信頼関係を養い、集団としてよりよい人間関係を構築する。 |
| 9月 8日 | 傾聴トレーニングで、他者との関わり方を学ぶ。         | 2月17日           | プラスのストロークで、周囲に対する声掛けや支え合える集団を目指す。                  |

- ②外部講師(スクールカウンセラー)を依頼する。
- ③コミュニケーションスキルのトレーニングを行う。



<アイスブレイクの様子>



<挨拶のロールプレイ>



<トラストワーク>

- ④実施後はシェアリングを行い、生徒同士で気づきを共有する。
- ⑤当該活動についての感想を、学級通信などを活用し、保護者にも理解を深めてもらう。



<気付いた事のシェアリング>

**コミュニケーションスキル**

2月13日(火)に「コミュニケーションスキル」の授業がありました。はじめはヒア・サポーターの皆さんにショートエクササイズをやってもらいました。そして、今度はプラスのストロークについて書いてもらいました。みんなの話を聞いていますとマイスのストロークが自然に出てくるようですね。ぜひ、みんなの話を聞いてほしいと思います。授業の振り返りとして「傾聴からプラスの言葉を返してほしい」と多くの感想が多かったです。講師の言葉が心に響き、自分自身でできることを楽しみにしています。ヒア・サポーターの皆さん、どうもありがとうございました。

**コミュニケーションスキル**

この授業は、非言語のコミュニケーションを通して、相手の気持ちを理解し、社会性を身に付けることを目的とした授業です。

【授業の目標】

- 「相手の感情（感情）を察し、言葉だけでなく、言葉以外の相手の感情や気持ちを感じ取る。」

【授業の進行】

- 1. 挨拶の練習(実践)を通して、相手の気持ちを察する練習をする。
- 2. ショートエクササイズを通して、相手の気持ちを察する練習をする。
- 3. 傾聴を通して、相手の気持ちを察する練習をする。
- 4. マイスのストロークを通して、相手の気持ちを察する練習をする。
- 5. 自己発見を通して、自分の気持ちを察する練習をする。

【振り返り】

- 1. 相手の話を聞いて、自分の気持ちを察する練習をした。
- 2. 自分の話を聞いて、相手の気持ちを察する練習をした。
- 3. 傾聴を通して、相手の気持ちを察する練習をした。
- 4. マイスのストロークを通して、相手の気持ちを察する練習をした。
- 5. 自己発見を通して、自分の気持ちを察する練習をした。

<学級通信>

**【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】**  
・他者への気遣いや心遣い、他者の気持ちを理解しようとする生徒が増えた。  
・周囲の状況に配慮し、行動できる生徒が増えた。

- 年間を通して意図的、計画的に活動を行ったことにより、ねらいとするコミュニケーションスキルを生徒に身に付けさせることができている。
- 専門性の高い外部講師を招聘したり、シェアリングを必ず位置付けたり、保護者にも活動内容を周知したりするなど工夫を図ることにより、取り組んでいることの必要性について生徒が理解を深めることができている。





# 「主な活動（概要）」（高等学校）

|  |
|--|
| 【学校名】北海道函館中部高等学校（定時制）                        |
| 【活動の名称】<br>「いじめ・ネットトラブル根絶！メッセージコンクール」にかかわる取組 |
| 【活用した資源】北海道教育委員会の事業                          |
| 【対象学年と活動の時期】全学年 7月                           |

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

（項目イー観点②絆づくり）

【活動の概要】  
・生徒会が中心となって、「いじめ・ネットトラブル根絶！メッセージコンクール」標語部門への応募を呼び掛ける。

【ねらい】  
・メッセージコンクールに取り組むことで、いじめ（ネットいじめを含む）の根絶、好ましい人間関係づくり、インターネット上の掲示板への誹謗中傷等の書き込みの禁止等への生徒の意識の醸成を図る。

【活動の流れ】

- ①生徒会が中心となり、応募方法等について企画する。
- ②生徒会役員と教師が応募作品を審査し、校内の各賞を選定する。
- ③選ばれた作品は教室等に掲示するとともに、学校だよりに掲載する。
- ④いじめの根絶やネットトラブルの防止に関わる活動に活用する。

平成27年度 いじめ根絶標語コンクール 優秀作品

- ・お互いに 傷つけない 傷つかない
- ・地球は丸いから やっていること かえってくるよ
- ・いじめ ハートブレイク
- ・相手の悪いところより いいところ
- ・楽しいの？ 心傷つけ 泣かせるの
- ・いずれあなたも そうなるからね
- ・報復は あなたに来るとは 限らない

＜生徒会が作成した実施要領＞

平成27年8月18日  
定時制生徒会

いじめ根絶標語コンクールについて

- 1 目的 「いじめは絶対にダメ」という意識を生徒全員に広げる。
- 2 取り組み 全校生徒による、いじめ根絶を目的とした標語の作成
- 3 計画
  - ① 各クラスでいじめ根絶のための標語を作成する。  
8/31（月）までに石王教諭に提出
  - ② 作成した作品はすべて管内のいじめ問題等対策連絡協議会へ出展  
宮本教頭が対応（9/2（木）必着）
- 4 生徒会執行部との打合せ 8月18日（火）放課後に執行部会を開く。



コンクールに応募した標語やポスター作品などは、学校便りや学級便りで紹介したり、入賞した作品については校内に掲示したりするなどして、いじめの根絶やネットトラブルの防止に関わる活動として活用しました。

＜美術部員によるポスター部門応募作品 左：管内最優秀賞、右：管内奨励賞＞

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・いじめの実態把握のアンケートに、「いじめは許されないこと」と回答した生徒が増えた。
- ・学校行事等において、他の生徒と協力し合いながら積極的に取り組む生徒が増えた。

- 全生徒が本活動に取り組むことで、生徒一人一人が「いじめは絶対に許されないこと」という認識をもつことができています。
- 生徒会が主体的に活動を進め、他の活動とも関連を図ったことにより、生徒は相乗的に課題解決の必要性を理解し、積極的に取り組むことができています。



# 「主な活動（概要）」（高等学校）

|                            |  |  |  |  |
|----------------------------|--|--|--|--|
| 【学校名】北海道函館中部高等学校（定時制）      |  |  |  |  |
| 【活動の名称】<br>性と生を考える         |  |  |  |  |
| 【活用した資源】NPO法人理事長（地域人材）、演劇部 |  |  |  |  |
| 【対象学年と活動の時期】全学年 7月         |  |  |  |  |

（項目エー観点①居場所づくり）

【活動の概要】  
 ・DVは、人権を侵害する行為であることを理解するとともに、講演やロールプレイングを通して、恋人同士の間で起こるデートDVを未然に防止するための考え方を学ぶ。

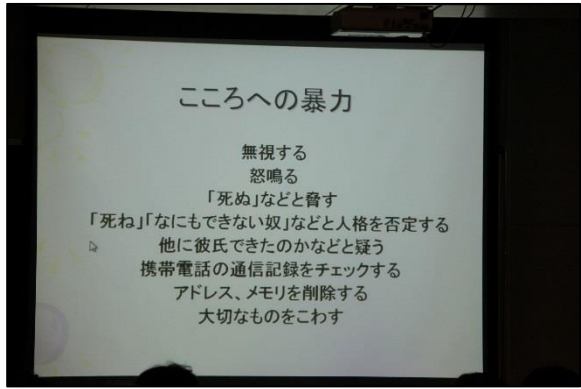
【ねらい】  
 ・誰もが互いに対等な存在であることを認め合うことによって、社会から暴力がなくなり、良好な人間関係が築けることを理解させる。

【活動の流れ】  
 ①教師が中心となり、講演やロールプレイングの内容を検討する。  
 ②講師と連絡調整、打合せをする。

対象となる生徒の実態、男女比を踏まえた講話の内容となるように、事前に情報を伝えておく。  
 演劇部員によるロールプレイングの内容についても、講話の内容に沿ったものとなるよう、顧問や生徒が事前打合せを行う。



〈演劇部員によるロールプレイング〉



〈講演会でのスライドの一部〉

③振り返りシートを用いて、クラスごとにシェアリングを行う。  
 ④シェアリングや生徒アンケートの結果を教師が集約し、学校便りで紹介する。



〈生徒にインタビューする講師〉

**生徒のアンケートから**


- ・自分の気持ちを言葉できちんと伝えることが重要だと感じた。
- ・相手への思いやりの気持ちをもって、互いが尊敬できるような間柄になることが理想的だと思った。
- ・付き合っている相手を束縛しないように気を付けて、絶対にDVをしないようにしたい。
- ・「こころへの暴力」とは何か知ることができた。

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】  
 ・デートDVに対する理解が深まり、他者理解の大切さを意識する生徒が増えた。  
 ・これまでの自分自身の行動を振り返り、今後、気を付けていきたいという生徒が増えた。

- デートDVを自分の身近な問題として捉えることができるよう、学校の資源である演劇部を活用したことにより、一層理解を深めることができます。
- 振り返りシートを用いたシェアリングを行ったことなどにより、自分自身の行動を見つめ直し、互いに対等な存在であることを認め合うことができます。



# 「主な活動（概要）」（高等学校）

|  |  |
|--|--|
| 【学校名】北海道上ノ国高等学校  |  |
| 【活動の名称】<br>「いじめ根絶討論会」  |  |
| 【活用した資源】リーダー研修会  |  |
| 【対象学年と活動の時期】全学年 7月・12月   |  |
| 【活動の概要】  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会が企画、運営し、学年混合のグループに分かれ、ワークショップ形式でいじめ根絶に向けた全校討論会を開催する。</li> </ul>  |  |
| 【ねらい】  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>SNSの特性を知り、文字と言葉の送り手と受け手のギャップを理解していじめが起きない使い方やマナーを理解する。</li> <li>ネットにおける危険性を理解し、宣言を作成する。</li> <li>異学年との交流を体験させ、人間関係を形成する能力を育成する。</li> </ul>  |  |
| 【活動の流れ】  |  |
| 1 第1回目   |  |
| (1) 事前準備   |  |
| ア 生徒会執行部員が、リーダー研修に参加したり、情報を収集して、いじめについての知識を深める。  |  |
| イ 生徒会執行部員が、討論会の要領を協議して決定する。  |  |
| ウ 討議を行い、活動目標を共有する。   |  |
| (2) 当日   |  |
| ア 全校生徒が10班に分かれて自分の班の位置に着席し、班ごとに活動する。   |  |
| イ 生徒会長が活動の趣旨、各班リーダーの進め方及びSNSにおけるいじめの事例提示の説明をする。  |  |
| ウ 全校生徒が個々にSNSの特性を付箋に書く。(ブレインストーミング)  |  |
| エ 全校生徒が付箋に書いた自分の考えを、順番に班内で発表する。(1人当たり2分程度)   |  |
| オ 班リーダーが率先して、個人の付箋をカテゴライズし、模造紙に貼り付けていく。(KJ法)   |  |
| カ 閉会(校長講評、生徒会長から第2回の活動に向けて説明をする。)  |  |
| (3) 事後   |  |
| ア 全校生徒は振り返りシートに記入して執行部に提出する。   |  |
| イ 執行部は活動の評価と反省を行う。   |  |
| <p>○一人一人感じていることが違うけど、やっぱりいじめがダメなのは皆が感じていることだと思った。皆で話し合うことの大切さといじめがダメと言うことを改めて実感した。</p> <p>○一人一人が色々ないじめの捉え方をしているんだなと思った。</p> <p>○もっと発想を変えて、友達と接してみようと思った。</p> <p>○ネットがあれば何でもできるから、いじめも起きるんだなと思った。</p> <p>○意見は人それぞれなので、声に出し合うことが大切だと思った。</p> |  |
|   |  |
| <p>&lt;生徒が感想を交流する様子&gt;</p>  |  |
| 2 第2回目   |  |
| (1) 事前準備   |  |
| ア 1回目の各グループのKJ法の結果を生徒会通信にまとめ、全校生徒に配付する。  |  |
| イ 生徒会執行部員が討議を行い、各班リーダーに打合せで活動目標を説明し、共有する。  |  |
| (2) 当日   |  |
| ア 全校生徒が前回と同じ班ごとに着席し、班ごとに活動する。  |  |
| イ 動画を鑑賞した後、生徒会長が今回の活動内容と目的を説明する。   |  |
| ウ 前回の活動で各班から出された問いについて、付箋に自分の考えを書いて発表し合い、個人の付箋をカテゴライズして模造紙に貼り付けていく。(ブレインストーミング、KJ法)  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>問い…SNSによるいじめが起る心のスイッチはどのように入るのか、入らないためにはどのようにすることが大切か。</li> </ul>   |  |
| エ 各班リーダーが班の考察結果を発表し、全体で共有する。   |  |
| (3) 事後   |  |
| ア 生徒会執行部員と各班リーダーで2回目の考察と結果の内容をまとめ、「いじめ根絶宣言」を作成し、生徒会通信を発行して共有する。  |  |
| イ 全校集会で「いじめ根絶宣言」を採択する。   |  |
| 【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>SNSへの書き込みが原因で起こるいじめやいやがらせを未然に防止するための意識を、全校生徒で共有することができた。</li> <li>生徒同士が学年を越えて話し合うことによって、いじめに対する認識を同じ視点で共有することができた。</li> <li>普段会話の機会が少ない上級生と下級生が、学年混合グループでの討議活動をすることにより、人間関係が構築された。</li> </ul>       |  |

- ワークショップにより、自分の考えをまとめて伝えたり、可視化された仲間の考えに触れたりすることで、互いの理解を一層深めることができています。
- ネットにおけるいじめの危険性について、全校生徒の意見をまとめたものを「いじめ根絶宣言」として採択することにより、いじめの未然防止に関わる意識を高めることができています。

